

WEP

ウェブ俳句通信

VOL. 75

俳句通信

特別作品25句 ● 青柳志解樹「夏から秋へ」

特集 ● 「原爆忌」「終戦日」にどう向き合ってきたか

和田悟朗・木田千女・大久保白村・日美清史・金森直治・柏原眠雨・脇村禎徳・
秦 夕美・須原和男・酒井弘司・中村和弘・寺井谷子・高野ムツオ・林 桂特別寄稿 ● 金子兜太の彼方へ？
社会性俳句時代 筑紫磐井

追悼・斎藤梅子さん

「山陰——巡遊」百瀬美津

斎藤梅子50句 船越淑子選

【特別寄稿30句】

吉岡桂六「秩父再訪」

【実力作家競詠60句】

小島千架子「時うつる」

船越淑子「匠の座」

【短期集中連載①・新作30句】

鈴木五鈴「褒美のメロン」

● 作品 ●

深見けん二・小笠原和男・小宅容義・今瀬剛一・
向田貴子・名村早智子・大岳水一路・塩路隆子・
鈴木康久・高岡すみ子・小坪健水・矢須恵由・
横澤放川・小野いるま・浦田庸子・今村たかし・
小林正史・穴澤絃子・福神規子・中島たまな
ほか

● 好評エッセイ ●

先人に学ぶ俳句「阿波野青畝(9)」岸本尚毅
俳句とともに「蛇笏の富士その一」井上康明
虚子の肖像「虚子の正二年」坊城俊樹
椒郛を求めて「第二芸術論と椒郛」神田ひろみ
森澄雄の背なか「その青春(長崎高等商業学校時代)」
千田佳代

季節の中で ⑥①

千葉県・木更津港



泊船に夏の蝶まだ降りしまま



行きつけの本屋が消えた港町を歩いては、珈琲喫茶に寄る。母親に連れられて入ってきた幼子にオレンシジュースが出て、は眠そうにテール越しの親の顔を見ている。母親がテールに手を載せる。と、子その親指だけを握って、母親をみつめる。テールの上のジュースのストロー子の口はとどかない。この光景を傍らに、ま歩いてきたもろが浮かぶ。この光が匂になるのはどこかを歩いている時かもしれない。

仲村青彦

特別作品25句

夏から秋へ

青柳志解樹

九輪草水辺に牛の蹄あと
万緑に溺れし声か山の鳥
萱草の一つしほめば一つ咲く
間伐夫舞鶴草を踏みつけに
河骨の花を見にゆく山の寺
放生池覆ひつくして蓮咲けり



特集

「原爆忌」「終戦日」に どう向き合ってきたか

1945年8月6日の広島への原爆投下、9日の長崎への原爆投下、それに続く終戦——その〈8月〉がまたやってきます。すでに70年がたとうとしていますが、「原爆忌（広島忌、長崎忌）」それに「終戦日（敗戦日とも）」の季語はいまも詠まれつづけています。

それらの季語にどのように向き合い、どのような句を詠んできたのか——について、14人の俳人にお書きいただきました。

第50回超結社吟行

梅雨どきの

長崎をゆく





ゲスト 浅井民子・峯尾文世

八木下末黒・和田順子

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集長 超結社句会の第20回目です。ゲストは「帆」主宰の浅井民子さん、「銀花」同人の峯尾文世さん、「朝」同人の八木下末黒さん、「繪硝子」主宰の和田順子さん。ホストは「玉藻」副主宰の星野高士さん、「泉」副主宰の藤本美和子さん。遠慮のない意見交換をお願いします。

（文）（文）（文）

初編や古道に平らなところ
末黒 「平らなところ」という表現によって「古道」の陰しさが逆にこの句から立ち上がってくるころの良さだと思います。

民子 同じなんです、「平らなところ」に「古道」の陰しきを見せてくれている。夏になった木々の繁りとかも見えてくる。目に見るものと耳に聞くものによって空気感が感じられて、いい作品だと思いました。

順子 「古道」っていうと歩きにくいイメージがあるんですが、平らなところに出たということで、気分もホッとして、「初編」が耳に届いたという関係が見えてきました。

文世 「初編」「古道」ときたところで、薄暗さとか山道を意